第４回
コメ政策と飼料用米の今後に関する意見交換会２０１９

開催日時：２０１９ 年（令和元年） １１月１３日（水）

１３：００（開場）

開会１３：３０ ～ 終了予定１６：５０

会　　場：食糧会館 中央区日本橋小伝馬町 15-15 会議室

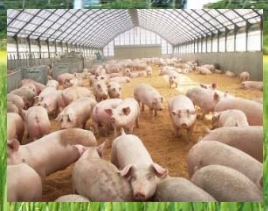
（５階 A/B 会議室）　定員：７０名

対　　象：関係官公庁（農林水産省、自治体など）、

コメ生産者/流通業者、畜産生産者/流通業者、農業団体、

飼料製造/販売業者、物流業者、消費者団体、学生、

研究･教育関係者、報道関係者 等



主　催　一般社団法人 日本飼料用米振興協会

第4回　コメ政策と飼料用米の
今後に関する意見交換会2019

飼料用米の位置づけと今後の展開方向
～生産サイドから考える～

（株）農林中金総合研究所
小針　美和
kobari@nochuri.co.jp

農林中金総合研究所
Norinchukin Research Institute Co.,Ltd.

米政策・主食用米需給調整からの転換

担い手農業者への直接支払
食料安全保障政策としての
穀物政策・飼料政策

■ 「筋トレ」に「プロテイン」

直接支払交付金のイメージ

■ 「取引」から「取組み」へ

日本型エコ・循環型農業の実践

■ 良質な飼料・堆肥の生産・活用の推進

現場実践とデータによる検証のループ

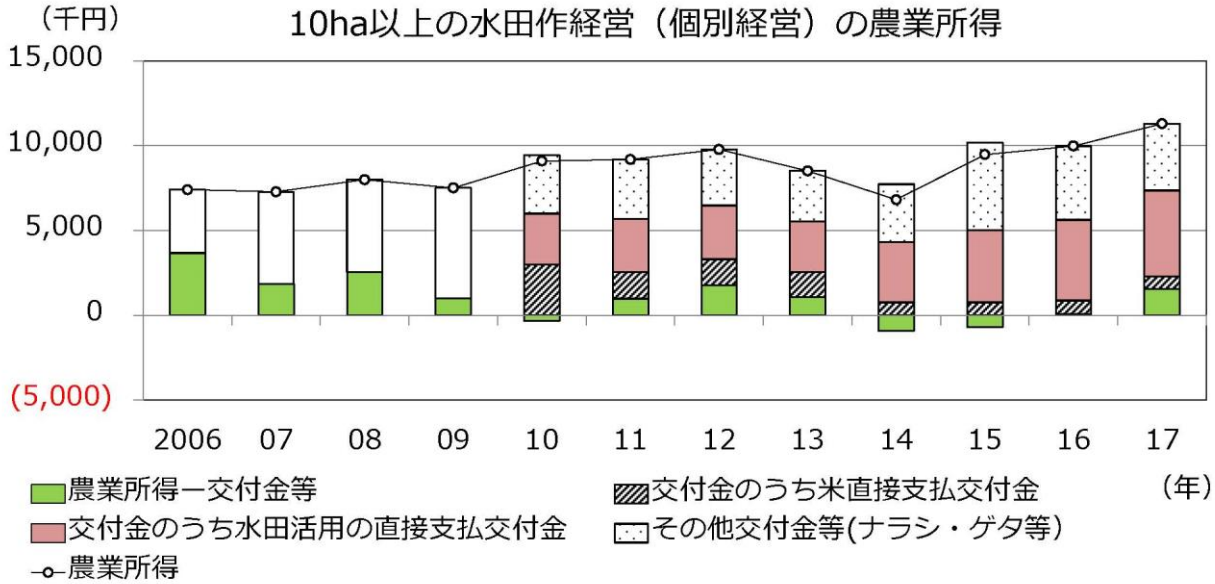
品種開発,栽培体系や飼料設計の改良

保管・運搬を含めたコスト低減の推進

■ リーダー・コーディネート機能

1. 担い手の農業所得と水田活用の直接支払交付金

- 担い手農業者の農業所得に占める水田活用の直接支払交付金の割合は,2017年では4割を超える。
- これら交付金なしには担い手農業者の経営継続は難しい。

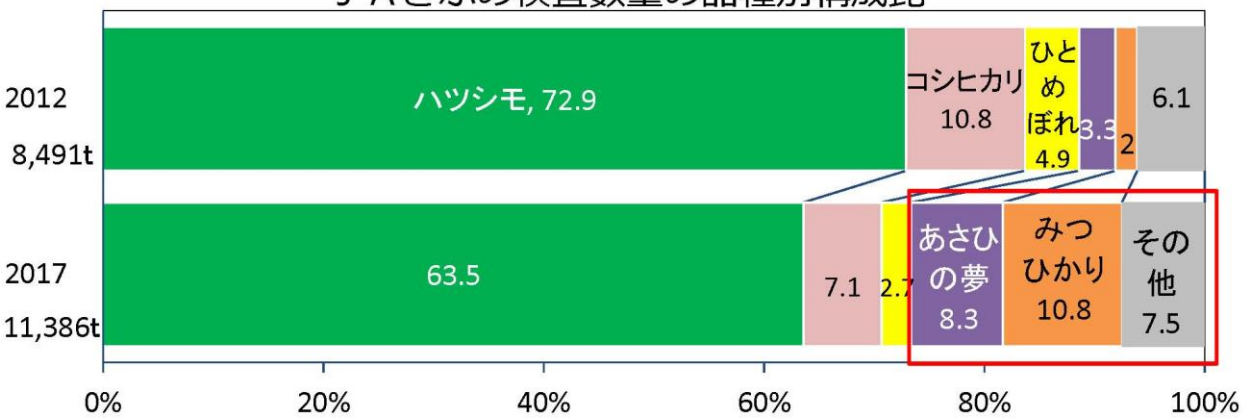


（資料） 農林水産省「農業経営統計調査」
（注） 2009年までは交付金等の内訳がない

2.　（1）ＪＡぎふの品種別検査数量

- ＪＡぎふの米穀検査数量（非主食用含む）は2012年で品種数15品種，検査数量8,491ｔ。品種別にはハツシモの割合が72.9%，ついでコシヒカリ10.8%
- 2017年では，品種数23品種（12年対比＋8品種），検査数量11,386t（12年対比34%増加）
- 2017年の品種別構成比をみると，みつひかり（10.8%），あさひの夢（8.3%），その他（7.5%）がコシヒカリ（7.1%）を上回る
- ＪＡぎふでは,主にみつひかり（多収性品種）を飼料用に仕向けている

ＪＡぎふの検査数量の品種別構成比

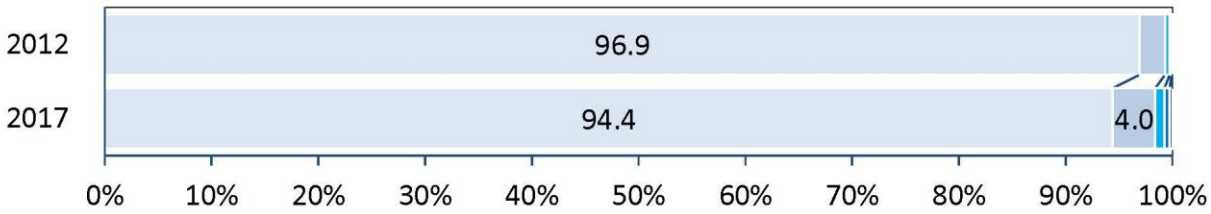


（資料）JAぎふ提供資料

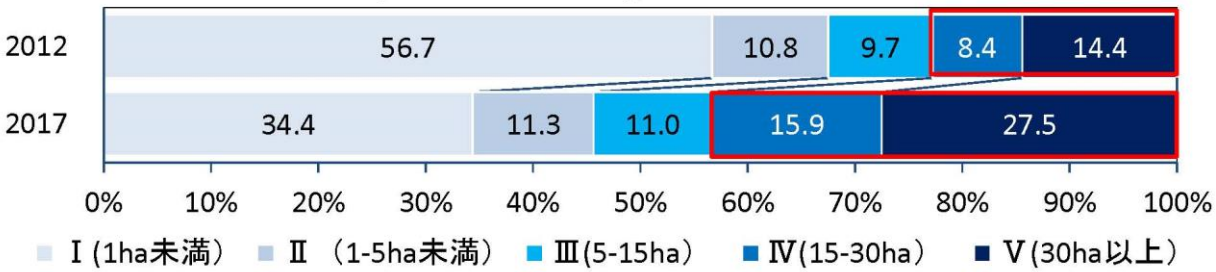
2.（2）ＪＡぎふにおける担い手への集積の状況

- 12年で米穀の受検をした経営体数は4,469経営体。うち96.9%が1ha未満
- 12年から17年で1ha未満の経営体数のみ減少。それ以外の階層は増加
- 検査数量構成比：1ha未満は56.7%（12年）→34.4%（17年）に大きく低下
- 15-30ha層は8.4%→15.9%，30ha以上は14.4%→27.5%に大きく上昇

規模別にみた経営体数構成比



規模別にみた検査数量構成比

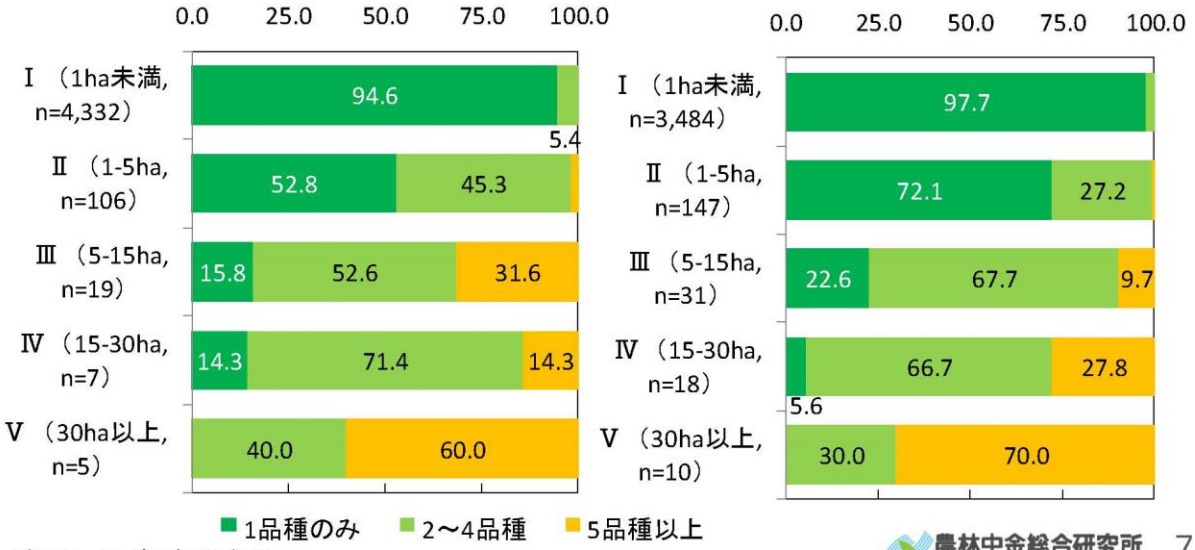


（資料）JAぎふ提供資料

2．（3）経営規模と作付品種数の関係

- 作付品種数を経営規模別にみると,小規模農家は1品種のみ作付がほとんど
- 1品種のみの経営体の割合は規模が大きくなるほど低下
- 規模が大きくなるほど作付品種数は増える傾向
- 規模が大きくなるほど品種数が多い経営体の割合が増える傾向は12年よりも17年の方がより強く現れる

経営体数の品種数別構成比（%）



（資料） JAぎふ提供資料

2．（4）農業者の作付品種選択

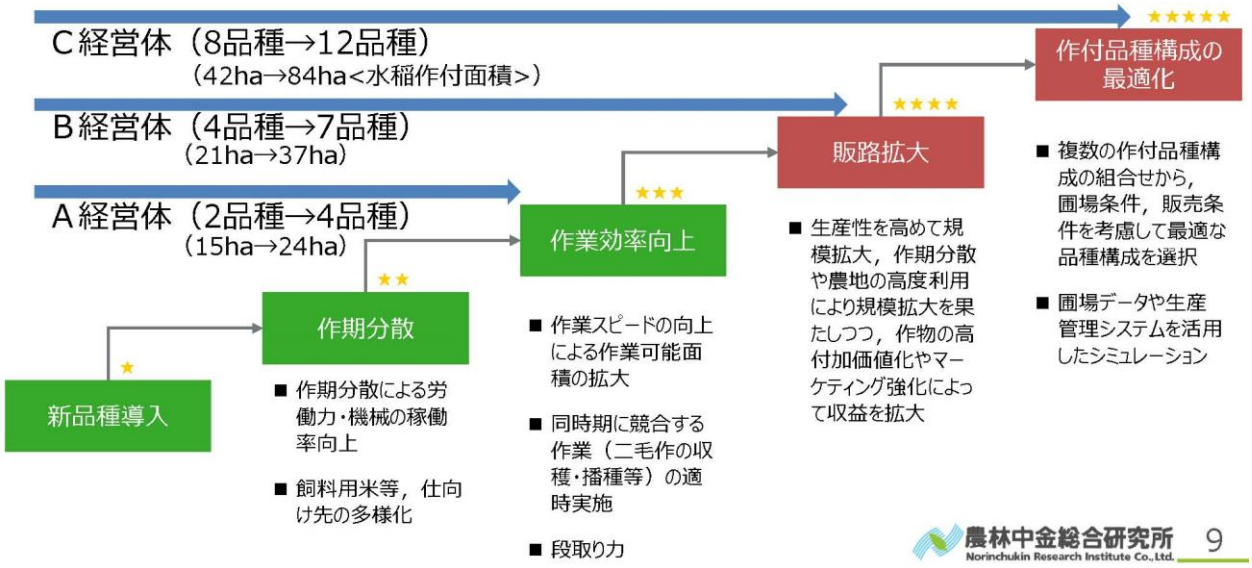
- 規模拡大している農業者の12年と17年の品種選択とその変化を整理
- いずれも労働力が変わらないなかで,飼料用米も取り入れながら品種構成,仕向け先を変え経営拡大に対応

	A経営体		B経営体		C経営体	
	12年産	17年産	12年産	17年産	12年産	17年産
経営面積(ha)	15	25	30	38	66	110
米作付面積(ha)	15	24	21	37	42	84
主食用米面積(ha)	15	14	21	13	42	49
主な労働力	2人（60代1人、20代1人）	2人（60代1人、20代1人）	4人（60代1人、30代3人）	4人（60代1人、30代3人）	4人（40代4人）	4人（40代4人）
稲刈り開始日	9月28日	9月20日	8月25日	8月25日	9月20日	8月24日
稲刈り終了日	10月20日	11月15日	10月29日	11月5日	10月25日	11月30日
作付品種数	2	4	4	7	8	12
うるち米・酒米の作付品種名と作付面積(ha)	ハツシモ(15)	ハツシモ（10） ほしじるし（4） みつひかり（10）	ハツシモ（8） あさひの夢（6） コシヒカリ（5） ミルキー（2）	ハツシモ（6） あさひの夢（14） ミルキー とよめき（1） 縁結び 揖斐の誉（4） みつひかり（11） ※あさひの夢の飼料用米は麦後の二毛作	ハツシモ（18） ミルキー（4） コシヒカリ（3） あさひの夢（3） ひとめぼれ（3） ヒノヒカリ みつひかり2005(7)	ハツシモ（19） ミルキー（3） コシヒカリ（7） あさひの夢（22） あきたこまち（2） 縁結び とよめき ちほみのり 五百万石 みつひかり（24） 北陸193号

（資料） 経営体へのヒアリングにもとづく

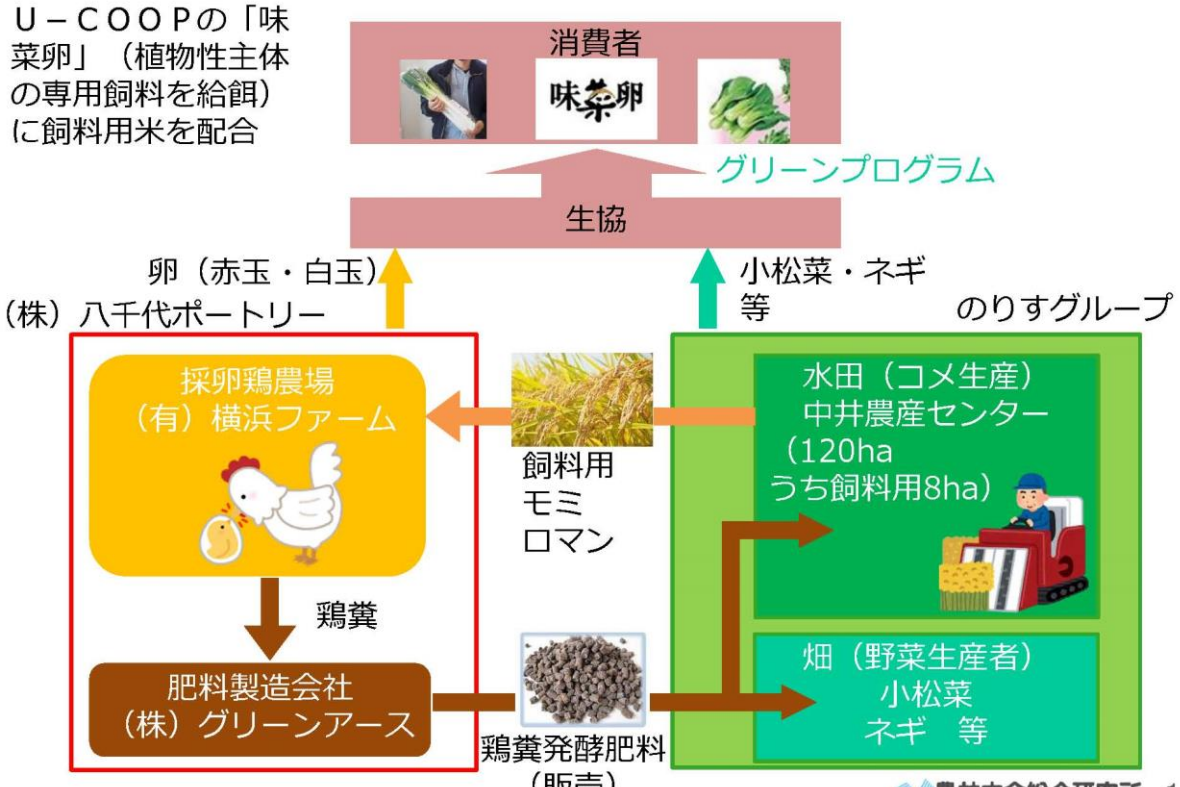
2．（5）農業者の品種選択要因（総括）

- 規模が大きい経営体でより作付品種数が多く，同一の経営体においても規模拡大とともに品種数が増えている
- 担い手農業者は作期分散による適期作業の実施や作業期間の延長，作業の省力化と販売先を考慮して品種を決定
- 適期作業の実施と作業期間の延長,作業の省力化に飼料向けを有効に活用



3. 養鶏（1）（株）八千代ポートリー・（有）中井農産センター

U－COOPの「味菜卵」（植物性主体の専用飼料を給餌）に飼料用米を配合



3. 養鶏（1）取組み概要・ポイント

■ 食品バイオマス堆肥の散布（2007年～）

コープみらいとの連携

■ 「彩のかがやきエコ循環米」（2008年～）

（2018年産は80ｔ（精米）の取組みに）

■ 2012年～飼料用米の栽培開始

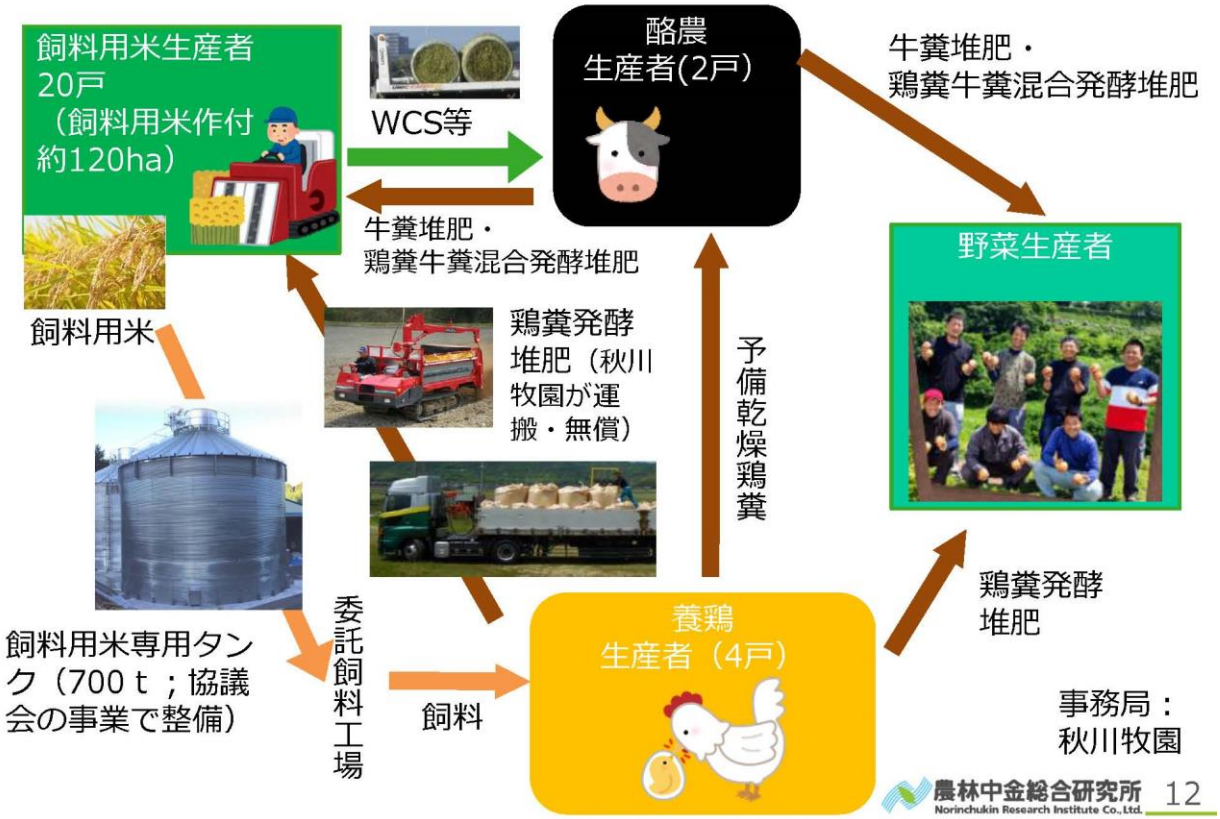
鶏糞発酵堆肥の活用

のりすグループの生産者の小松菜,ネギ等の野菜をグリーンプログラムの商品として販売

■ 飼料用米の作付面積は全体の1割程度

米政策,特に飼料用米の施策は先行きが不透明

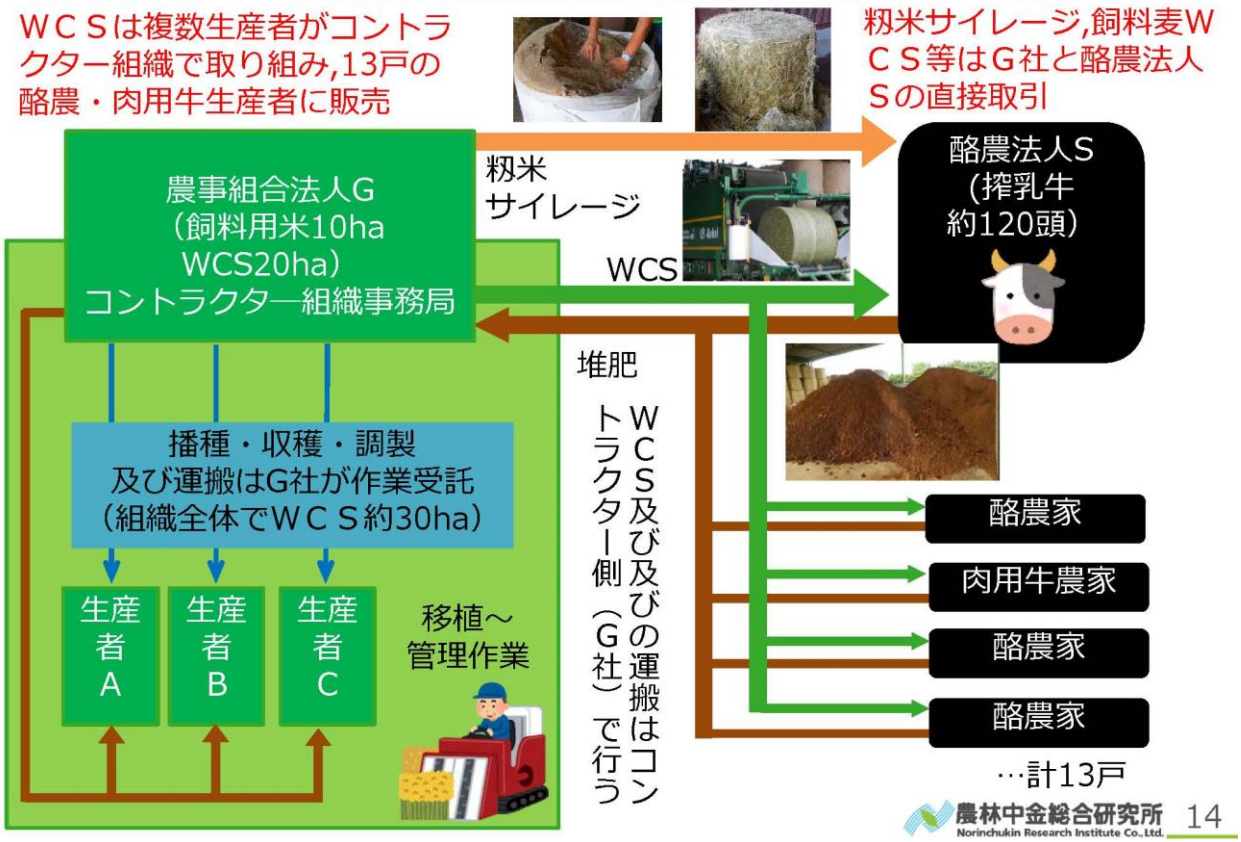
3. 鶏肉（2） 山口ぐりーんねっと協議会



3. 鶏肉（2）取組み概要・ポイント

- 秋川牧園の無投薬飼育の次のステップ「飼料の生体濃縮型残留農薬の安心安全」「nonGMの確保」
  国産飼料・飼料用米への着目
- 「元気な生産者」の多収穫栽培の３本柱
  ①有機質完熟鶏糞堆肥の多投（堆肥は無償で供給）
  ②飼料米専用品種の採用と開発（種子生産）
  ③保管・運搬コストの低減（サイロの建設）
- 行政と一体で進める共励会・技術指導体制の強化
  年2回の全生産者圃場の視察会（関係機関も連携）
  多収・安定生産に向けた栽培技術の改良・確立
- 大豆の連作障害や地力の低下といった稲作農家の課題解決にもつながる

3. 酪農（3） 前橋市南部平坦地の耕畜連携の取組みスキーム



3. 酪農・肉用牛　取組み概要・ポイント

■ 【耕種】新しい集落営農法人の経営スタイルづくり

地域の酪農・畜産の飼料ニーズに応える

ＷＣＳ･飼料用米の助成,経営体育成事業等を活用

■ 耕種のコントラクター組織が主体の連携スタイル

酪農・畜産（小規模が多い）は本業で手いっぱい

耕畜連携の事務手続きは煩雑

WCS用の収穫・調製機械の有効活用

■ 【耕種】堆肥施用による地力向上効果

■ 【酪農】高い技術・データ検証にもとづく生産

良質な堆肥生産（乳酸菌の活用,嫌気発酵等）

国産飼料を活用しつつ乳量を維持する工夫や飼料設計の模索,粗飼料としての稲わらの有効活用

農林中金総合研究所 Norinchukin Research Institute Co.,Ltd. 15

MEMO

第４回　コメ政策と飼料用米の今後に関する意見交換会２０１９資料

編集作成：一般社団法人 日本飼料用米振興協会

作成担当：理事・事務局長　若狭良治

作成月日：２０１９年１１月１３日（水）会場配布

ＵＲＬ　　：http://www.j-fra.or.jp/

お問い合わせ先：postmaster@j-fra.or.jp

非 売 品：意見交換会終了後、ホームページからダウンロードできます。

第６回（通算１３回）飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会

令和元年度
（第４回）飼料用米多収日本一表彰式
（第３回）飼料用米活用畜産物ブランド日本一表彰式
（第６回）
～飼料用米普及のためのシンポジウム２０２０　～

開催月日：２０２０年3月１８日（水）
開催時間：開場　１０：３０　開会　１１：００　～１７：００
　シンポジウム一部　１１：００　～　１２：００
　資料展示・試食会　１２：００　～　１２：５０
　表彰式　１３：００　～　１４：２０
　シンポジウム二部　１４：４０　～　１７：００
会　　場：東京大学・弥生講堂（シンポジウム・表彰式）、ロビー（資料展示）、会議室（試食会）
受付開始：２０２０年１月上旬
受付窓口：一般社団法人　日本飼料用米振興協会

メールアドレス　symposium20200318@j-fra.or.jp　（2020 年１月初旬に設定します）

主催　一般社団法人　日本飼料用米振興協会

後援　（申請中）農林水産省（昨年実績）

飼料用米多収日本一表彰式　共同開催　一般社団法人　日本飼料用米振興協会／農林水産省
飼料用米活用畜産物ブランド日本一表彰式　主催　一般社団法人　日本養豚協会　後援　農林水産省